AQUOSをパソコンモニターに快適に使う（RS-232C対応の機種）

WM-T　AquosSW　サポート掲示板はここをクリックしてください

AQUOSを快適にパソコンモニターとする

AQUOSSW説明の目次

AQUOSをパソコンのモニターに

- パソコンも大画面で使おう
  - AQUOSはパソコンの入力を受けられる、アナログRBG・最近の機種ではHDMIなどがあります
  - 2003年以降のAQUOSは多くの機種でRS-232Cの制御ができます（要クロスシリアルケーブル）
  - パソコンのモニターが不要になる
- テレビを見ている最中にちょっとインターネットを調べたくなった時に便利
- ゲームなども大画面で迫力満点
- Windows XP・VISTA・7　向けの便利ツール
（Windows 95・98・ME やMacには対応しておりません）
- パソコンは省電力モードを積極的に使おう
起動の時間を省略できる省電力モードを利用しましょう
  - 一定時間がたつと、スリープ状態にする機能を使います設定方法は以下をクリックしてください
  - パソコンを省電力モードに自動的にする設定方法
- このプログラムのショートカットをスタートアップに登録すれば、起動時でも動作可能
  - ただし、ログイン画面・ユーザー選択画面で止まる場合は、その時点では動作しませんのでご注意ください
  - レジストリーの変更であるユーザーを自働起動することは可能ですが、レジストリー操作は自己責任で行ってください「*AutoAdminLogon*」でWeb検索してください

AQUOSSW 説明

- パソコンを使いたいときに、AQUOS画面をパソコンに切り替えてくれる。
- パソコンを使わなくなったら、省電力モードに。
  HDMI接続でも省電力に切り替え
- AQUOSとパソコンをケーブルで接続するだけ
  RS-232C非対応の機種を除く（2002年以前のモデルは対応していないようです）
- 省電力モードから復帰するとリモコンいらずで、AQUOSがモニターとして使える。
  - 注意：AQUOSの電源の操作は「クイック起動」をOffにしていると、一定時間（数分）以降復帰できません、その場合は電源だけ入れる必要があります
  - ２００６年以降の機種ではクイック起動に対応しているようです、AQUOSのメニューの本体設定で確認してください。こクイック起動に対応していない場合AQUOSの電源を自動で入れることはできません。
  - 「クィック起動」をONにすると待機電力が増えます
    機種により消費電力は違いますが２０W以上消費します
  - 省電力から復帰後にAQUOSの電源を入れてもパソコンに切り替えます。

このページはシャープ株式会社と関係はありません

接続方法

- モニターの接続方法は機種により違いますのでAQUOSの取扱説明書とパソコンの取扱説明書で確認してください
- ケーブルはHDMIやDVIやRGBケーブルとオーディオケーブルとRS-232Cケーブル（クロスシリアルケーブル）が必要です。
  - 例：Elecom社製ケーブル http://www2.elecom.co.jp/cable/rs232c/c232r-9/index.asp
  - アクロス　ARS710・サンワサプライ　KRS-403XF1K
- RS-232Cの無いPCはUSBの変換ケーブルが市販されています。この場合もクロスケーブルは必要です。
  - 接続したCOMポートは自働検索しますので、特に指定は不要です

動作説明

- ポートは自働スキャン
  - 接続されているときと、接続されていない時をアイコンで表示
    通信可能　通信できず
  - アイコンは右下（設定によって変わります）の通知領域に表示されます
  - 対応可能なポートはCOM1～COM32です。途中で切り替わっても認識します。
- 一度だけ、パソコンの接続されている入力を選ぶだけ
  - 省電力から戻った時に、AQUOSの電源が切れていれば電源を入れ、パソコンの入力に切り替える（クィック起動Offの場合は電源を入れられません、事前にAQUOSの電源が入っている状態でお使いください）
- 設定画面は通知領域のアイコンのダブルクリックで呼び出せます
- パソコンを使わなくなったら
  - AQUOSの入力がパソコンの時はAQUOSの電源を切る
  - AQUOSの入力が違えば何もしない
- パソコンが省電力になっていないときに入力をパソコンに切り替える
  - テレビまたは別の入力の時にCtrl+Shiftキーを押す（2秒以上）とパソコンに切り替える
  - ただし、ログイン画面で止まっているときや、別ユーザーでは操作できません
- テレビに切り替える
  - パソコンの画面を出しているときにCtrl+Shiftキーを押す（2秒以上）とテレビに切り替える

USB接続のRS-232Cは接続するUSBの口が変わると別のポート番号になる製品が多い為、自動検索機能を付けました

パソコンを省電力モードに自動的にするには

- Windows XPの場合
  - デスクトップの何もないところで、右クリックして「プロパティ」から「スクリーンセーバー」タブで「電源」ボタンから「電源のオプションのプロパティ」から「電源設定」のところで「システムスタンバイ」に時間を入れます
  - Windows XPの場合は、スタンバイの時に電源が切れると、復帰できませんので、スタンバイ中に電源を切らないでください
- Windows VISTAの場合
  - デスクトップの何もないところで、右クリックして「個人設定」から「スクリーンセーバー」で「電源設定の変更」リンクから「電源のオプション」から「お気に入りのプラン」のところで選択されているプランの「プラン設定の変更」で「コンピュータをスリープ状態にする」時間を選択します
- Windows 7の場合（RC版では）
  - デスクトップの何もないところで、右クリックして「個人設定」から「スクリーンセーバー」で「電源設定の変更」リンクから「電源のオプション」から「お気に入りのプラン」のところで選択されているプランの「プラン設定の変更」で「コンピュータをスリープ状態にする」時間を選択します
- 上記以外の方法
  - いずれのバージョンでも、ファイル名を指定して実行で「powercfg.cpl」と入力して実行すると設定画面を呼び出せます。
- USB機器の中には、スタンバイをサポートしていないものもあります

インストールに関して

- 対応OSはWindows XP・VISTA・7　32Bit＆64Bit
- インストールページの呼び出し
  - 現在対応ブラウザは、IE7またはIE8です。
- ブラウザが違う場合（IE6の場合はアップデートをお勧めします）
  - .NET Framework 2.0SP1 32Bitまたは64BitとLanguage Pack 32Bitまたは64Bitがインストールされていれば以下のリンクからもインストールが可能・インストール後再起動してください　OSが64Bitの場合は64Bitのリンクをご利用ください OSが32Bitの場合は32Bitのリンクを使用します。
本体とLanguage Pack 両方のインストールが必要です。
  - Setup.exe ← クリックして実行でインストールが出来ます（動作しない場合は右クリックからリンク位置をコピーして、アドレスバーに貼り付けてください）

免責

- 当ソフトはフリーソフトで配布しておりますが、著作権を放棄した訳ではありません。
- 当サイトからダウンロードしたソフトウェアや画像を販売したり、有償で設置、変更等を行うことはできません。
- 当サイトから得られる全ての情報・情報体によって生じる結果は、その情報・情報体の利用者が全責任を負います。当方では一切の責任を負いません。
- 当サイト上、および、当サイトからリンクされたサイトに存在するあらゆる情報は、正しい情報である保証はありません。よって、このサイト上の情報を利用した際になにか問題が生じても、当方では一切責任を負いません。
- 当サイトからダウンロードできる全てのソフトウェアとファイルについて、それを利用した際に発生したあらゆる問題について、その予見可能性にかかわらず、当方では一切の責任を負いません。
- 当サイトからダウンロードできる全てのソフトウェアとファイルは、危険で誤りのあってはならない環境下(ハイリスク活動)で利用できるようには作られていません。
- 当サイトでは掲示板で質問を受け付けていますが、それに対して、正しい応答ができる保証はありません。
- 当サイトからダウンロード可能なソフトウェアを当サイト以外の場所から入手した場合も、その結果については当方では責任を負いません。一般に、当サイト以外の入手先も、責任を負いません。また、その媒体に事実でないことが書かれている可能性は十分にあり得ますので、不自然に思ったことについてこちらに質問をよせる前に、まずは当サイトで該当情報がどう記載されているかをよく確認してください。
- ソフトウェアに関して質問を寄せる場合は、それが最新バージョンかどうかを確認してください。旧バージョンに対する質問にはお答えいたしかねます。
- 当サイトからダウンロード可能なソフトウェアを利用して、他人に不利益を被らせたり、道徳・憲法・条約・法律・条例・政令・省令・判例・その他の規則に反する行為を行ってはいけません。行った場合は、ソフトウェアの使用者が全責任を負うものとします。
- 会社名、システム名、製品名は一般に各社の登録商標または商標です。
- この免責事項は変更する場合があります。